

# 成田ニュータウンにおけるコミュニティ活動の特性

久保倫子・小野澤泰子・橋本 操・菱沼雄介・松井圭介

キーワード：成田ニュータウン，居住者特性，コミュニティ活動，成田ふるさと祭り，成田市

## I 研究課題

### I-1 研究の背景と研究目的

日本における郊外住宅地は、1960年代以降急速に供給が進んだ。非大都市圏出身者の住宅取得先として、大都市圏に集中した人口の受け皿となったのがこれらの住宅地であり、日本における郊外住宅地は、非大都市圏出身の都心に通勤するサラリーマン世帯のベッドタウンとして開発されてきた（谷，1997；川口，1997）。ハウードの田園都市構想によるレッチワースなどの郊外住宅団地は、職住近接を基盤とした比較的自立的な居住地域であったが、日本においてこのような発想のもとに供給された居住地域は限定的である。福原（2005）によると、多摩ニュータウンや千里ニュータウンの初期の計画において、自立的な住宅地とするかベッドタウンとするかの議論がなされたが、深刻な住宅不足の解消のため、ベッドタウンとしての開発が選択されたという。ベッドタウンとしての郊外住宅地の特性は、以下のように示されている。

千里ニュータウンなどを扱った研究では、均質な年齢および世帯構成の居住者が一度に転入していることや（金城，1983）、居住者の高齢化と非高齢人口の転出によって、住宅地全体の高齢化の進行が懸念されている（長沼ほか，2006）。また、均質な住宅供給がなされ、似通ったライフイベントや年齢に達した居住者が転入し定着することから（由井，1999）、郊外は経験的に均質的

な空間であるとされてきた。郊外の均質性に関して、中澤ほか（2008）は、東京都心から同距離に位置する二つの郊外住宅地を事例として、第一世代の高齢化と第二世代の定着または離家が同じように進行するのかを検証した。その結果、第一世代の特性においては比較的均質的であった居住者特性は、世代交代を契機として社会階層などの面における微妙な差異が表面化しており、郊外の住宅地が必ずしも均質的な特性を有する居住空間ではないことが示された。これらを踏まえると、郊外住宅地の多様性を踏まえた研究はますます重要になると考えられる。特に自立的な郊外住宅地に対する研究は限定的であり、これらの地域における居住者の特性やコミュニティのあり方については未だ実証的な裏付けを得ていない。

欧米においては、ジェンダー化という視点から郊外住宅地に関する研究蓄積がなされている。Watson（1980）は、英国の研究において、伝統的な核家族に当てはまらない世帯は住宅政策や住宅供給から疎外されていることを示した。住宅供給の中で維持されてきた家族の概念が、家庭内における女性の役割を限定し、家長長制的な関係性から女性が従属的な地位に置かれているとしている。また、Rose（1980）は、郊外においては、男性による生産的労働（住宅地外）と女性による再生産労働（住宅地内）という性別役割分業が前提とされ、郊外における住宅の所有と女性の家庭内の役割との間には、イデオロギー的に近い関係が見られるとしている。また、影山（2004）は、

日本の住宅がジェンダー化された空間であるとし、日本の住宅制度が家父長的役割によって維持されてきたことを示している。

このような性別役割分業は、コミュニティの維持管理という側面においても確認されている。郊外住宅団地においては、女性居住者がコミュニティの担い手としての中心を担うとされ（一番ヶ瀬, 2003）、就業時には、地域との接点をもたなかった男性居住者は、定年退職を機に、女性居住者の助けを得て地域活動へと参加するようになるという（木村, 2006）。

しかしながら、自立型の郊外住宅地において、これらの特性が当てはまるかは疑問である。戸建て住宅地区に比較的均質的な居住者が居住するベッドタウン型の郊外住宅地とは異なり、自立型の郊外住宅地においては多様な住宅が供給され、居住者の属性も多様である。また、就業地が住宅地内もしくは、住宅地周辺にある男性居住者は、ベッドタウン型のコミュニティと比較すると就業中から地域で過ごす時間が長い可能性が高いためである。

東京都心部から60km圏にある郊外住宅地は、東京通勤圏としては不利な立地にあることなどから、職住近接を目的に作られたものがみられる。成田ニュータウンや筑波研究学園都市がこれにあたり、成田空港や大学等の研究機関という就業地を住宅地の近隣に抱え、職住近接による自立的な郊外住宅地である。これらの自立型の郊外住宅地において、いかにコミュニティが形成され、維持されているのかを明らかにすることは、既存研究に新たな知見をもたらすとともに、郊外の多様性を示すことにも貢献すると考える。本研究は、自立的な郊外住宅団地を代表する成田ニュータウンにおいて、コミュニティ活動の特性を明らかにすることを目的とする。

## 1-2 研究方法

コミュニティとは、都市社会学において多くの議論がなされてきた概念である。コミュニティは、居住地区などの境界によって区分されるもの、居

住者によって形成される社会システム、地域的な繋がりに関係なく人間同士の繋がりや親近感によるもの、イデオロギーとしての役割、そしてサンフランシスコにおけるゲイ・カルチャーに代表されるブント的なコミュニティが存在するとされている（Bell and Newby, 1976; Schmalenbach, 1977; Hetherington, 1990; Savage・Warde, 1993）。本研究で扱うコミュニティとは、居住地区の境界によって定義される地域内の多様な活動、つまり自治会活動や管理組合などのように資産の管理という側面を持つ活動や、居住者間の心理的紐帯等に重きを置いた文化活動などが、地域内で形成している社会システムを表す。友人関係やサークル活動に関しては、居住地区の枠を超えて居住者が繋がりを形成しているものも含んでおり、成田ニュータウンという地域的境界を越えて存在するものもある。しかし、これらの活動は、多様な活動が重層的かつ有機的に関わりあう成田ニュータウン内の社会システムの中に組み込まれているものであるため、本研究の対象として取り入れる。

調査方法は、成田ニュータウンにおける地域行事に関する議事録などの資料の分析、成田ニュータウン自治会連合会役員および成田ニュータウン自治会連合会に加盟する自治会や町内会の役員へのインタビュー調査、そして居住者へのインタビューおよびアンケート調査を実施した。2008年11月および2009年5月から8月にかけて現地調査を実施した。本研究では成田ニュータウン自治会連合会および各自治会の協力を得て、地区内の分譲住宅の供給時期と形態が異なる4地区にアンケートを配布した。A地区では110世帯に配布し、23世帯から回答を得た。B地区では120世帯に配布し、24世帯から回答を得た。C地区では110世帯に配布し、38世帯から回答を得た。D地区は100世帯に配布し、11世帯から回答を得た。成田ニュータウン自治会連合会や各自治会の役員へは、地域行事への取り組みや、各地区内に組織されている自治会の下部組織などについて訊ねた。アンケート調査においては、文化活動や自治

会などの主催する活動などへの参加状況、友人関係、そして居住者の特性を訊ねた。

本論文の構成は以下の通りである。IIにおいては、アンケート調査への回答を踏まえて、成田ニュータウン居住者の世帯構成、就業、居住経歴を示す。次に、インタビューおよびアンケート調査によって得られたデータを基に、居住者のコミュニティ活動への参加状況を示す。次に、成田ニュータウンにおける住民参加型の地域行事である「成田ふるさと祭り」への住民参加を事例として、成田ニュータウンにおけるコミュニティ活動の特性を明らかにする。

### 1-3 研究対象地域

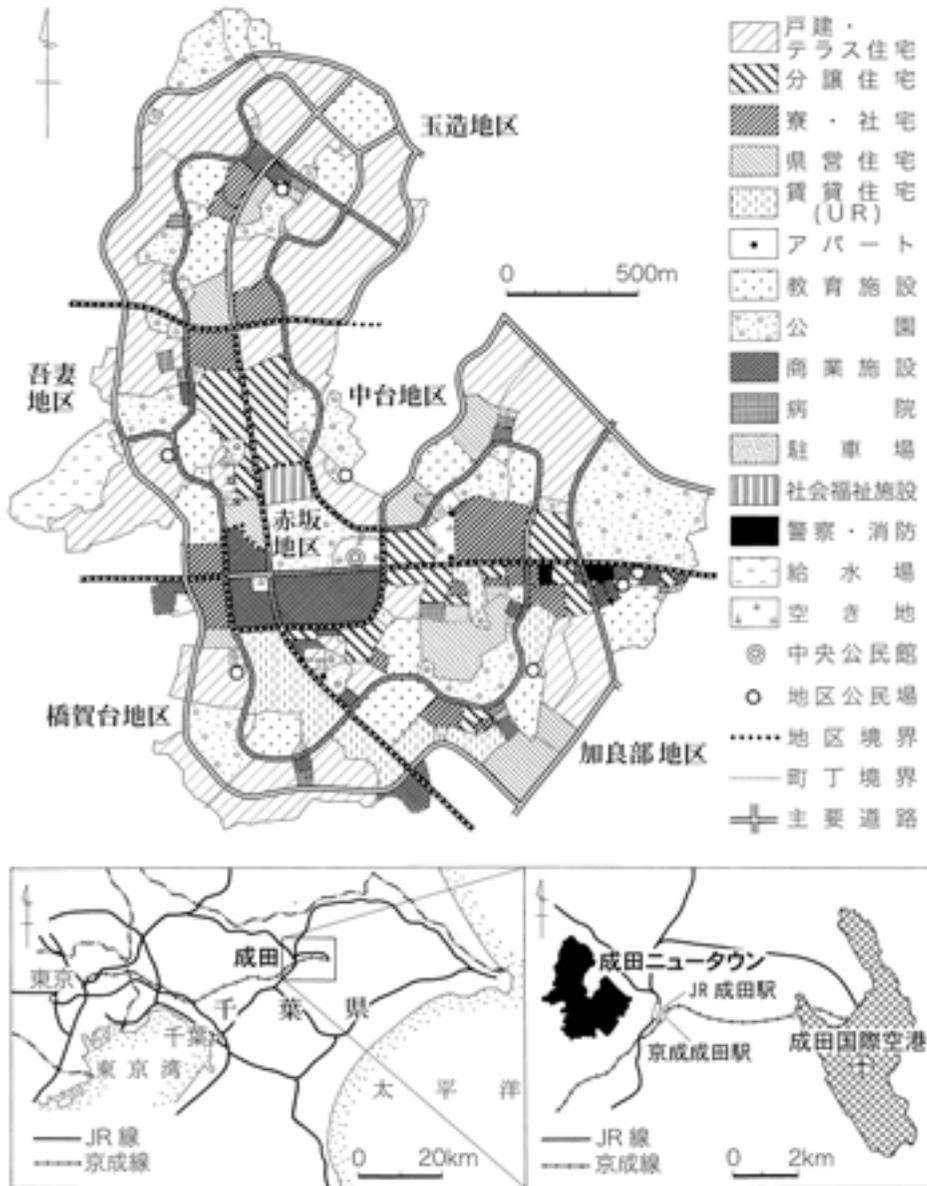
本研究の対象地域である成田ニュータウンは千葉県成田市にあり、東京都心から50km圏内、成田空港から西に約8km、JR成田駅から西に約2kmに位置している（第1図）。国勢調査2005年による成田ニュータウン人口は約3.3万、世帯数は約1.4万となっている。これは成田市全体の約34%にあたる。形状は東西2.5km、南北3kmから成り、標高10mから40mの丘陵地である。土地利用は、宅地が231.5ha（47.9%）、道路用地が96ha（19.9%）、公園が60.1ha（12.4%）となっている（成田市都市部都市計画課、2007）。

成田ニュータウンは、1968年に千葉県企業庁による新住宅市街地開発事業として全域が一体に整備された市街地で、1978年の成田空港開港にともない空港関連業者への良好な住宅環境を提供するために計画された経緯をもつ。また、成田ニュータウンは東京都心50km圏内にあるため、当初から自立したニュータウンとして計画された。日本の多くの郊外住宅地が都心部への通勤を前提としたベッドタウンであるが、成田ニュータウンは職住近接によるハウードの田園都市構想を基盤とした郊外住宅地として成立したといえる。徒歩圏内の生活を充実させるため、地区センターとして赤坂などの商業地区、サブセンターとして各地区にショッピングセンターを設置し、それらを結ぶ緑道を設置した<sup>1)</sup>。この緑道は集合住宅内で子供

や高齢者を守るため車が入ってこないように作られた歩行者専用道路である。この緑道は各地区の住宅と学校・商業施設などを結んでおり、徒歩圏内の生活を支えている。

1970年に中台地区と加良部地区で分譲が始まり、1972年から成田ニュータウンへの入居が始まった。開発は中台東部から時計回りに加良部、橋賀台、吾妻、玉造西部、玉造東部、中台西部という順に開発された。また、開発に当たり、ニュータウン敷地内には多くの古墳があったが、その多くは保存されており、現在でも小学校や近隣公園などで見ることができる。

ニュータウンの住宅土地利用を示した第1図をみると、赤坂地区はニュータウン全体の中心地区であり、商業・業務機能が集積し、住宅の分布はみられない。一方、周辺地区は住宅系土地利用が卓越している。最初に供給が行われた中台地区では分譲戸建住宅・旧住宅公団（現都市再生機構、以下ではURと略す）による賃貸住宅などがあり、大通りに面した地区は寮・社宅や分譲集合住宅が立地している。中台地区においては、中台小学校が1972年に、中台中学校が1973年に開校した。次に開発された加良部地区では分譲戸建住宅・賃貸集合住宅・寮・社宅・商業施設など様々な施設が混在している。加良部地区は開発当初よりURによる賃貸住宅や航空会社の社宅が集積していた地区である。近年では、社宅跡地の再開発によって、若年世帯向けの分譲住宅の供給が盛んな地域である。この地区にある西中学校は1964年に、加良部小学校は1973年に、新山小学校は1977年に開校した。橋賀台地区は分譲戸建住宅と賃貸集合住宅がほとんど占めている。橋賀台3丁目はURによる賃貸住宅および公営住宅、社宅が集積する地域であり、戸建分譲住宅のみの1・2丁目とは対照的である。橋賀台小学校は1975年に開校した。吾妻地区は戸建分譲住宅とURによる分譲集合住宅が大半を占めているが、県営住宅もみられる。この地区にある吾妻小学校と吾妻中学校は1978年に開校した。玉造地区の大半は戸建分譲住宅が占めているが、寮・社宅やURによる集合住宅も少な



第1図 成田ニュータウンにおける住宅の分布 (2008年)

らずある。この地区では1981年に玉造小学校が、1984年に神宮寺小学校と玉造中学校が開校した。また、玉造地区はJR線および京成線の成田駅から最も離れており、公共交通の利便性が他地区に比べ劣っていた。しかし、成田新高速鉄道の成田ニュータウン北駅(仮)が2010年に玉造地区の北端に開設予定であるため、新規の分譲戸建て住宅

の開発が行われた。

また、赤坂地区には中央公民館、さらに他地区でも公民館が設置され、住民によるコミュニティ活動の拠点としてサークル活動等に利用されている。成田ニュータウン内には、多くの公園や遊び場が存在することから、晴天の昼間には家族連れや高齢者夫婦が散歩する姿がみられる<sup>2)</sup>。

事例となる地区の特性は以下の通りである。A地区は1980年代に開発された戸建分譲住宅<sup>3)</sup>による地区である。B地区はエレベーターのない4階建ての分譲集合住宅の地区であり、1980年代に開発された。C地区は戸建分譲住宅による地区であり、1980年代から2000年代までに約110戸が分譲された。最後にD地区は日本航空（JAL）の社宅跡地の再開発により、分譲集合住宅が供給された地区である。

## II 成田ニュータウンにおける居住者の特性

本章においては、アンケート調査を基に、成田ニュータウンにおける居住者の特性を示す。

### II-1 居住世帯の構成

第1表は、世帯主の年齢を示したものである。30歳代以下の世帯主が11.4%、40歳代が16.7%、50歳代が20.8%、60歳代が31.3%、70歳代以上が17.7%となっている。具体的には、A地区では60歳代の世帯主が56.5%、B地区では66.7%と高い割合を示した。これらの地区は成田ニュータウンの分譲初期から成立した地域であり、分譲初期に入居した世帯が居住し続けていることによると考えられる。C地区は、多様な年齢構成がみられ、D地区では約90%が40歳代以下であった。

世帯構成をみると、回答世帯の約半数にあたる49世帯は就学児のいる家族世帯であり、次いで50歳代以上の夫婦のみ世帯が続く。50歳代以上の夫婦のみ世帯の多くは、子が離家した世帯である。また、その他の世帯構成には、就業中の子とその両親の世帯や、多世代同居の世帯などが含まれる。

第2表は住宅購入時期と住宅の所有形態を示している。住宅購入時期は、それぞれの分譲時期と重なる傾向が強くみられ、新築の住宅を購入して居住している世帯が多いことが確認された。一方で、中古住宅を購入して居住している世帯が多いのは、分譲集合住宅やC地区の戸建て住宅であり、広大な敷地に豊富な室数をもつものが多いためであると考えられる。D地区では住宅購入世帯の全

てが新築の集合住宅を購入している。

### II-2 就業特性

第3表は世帯主の職業と就業地を示している。18人の世帯主が航空会社に就業し、6人の世帯主が航空関連産業に従事しており、空港関連の就業に従事する世帯主が25%を占める。成田空港勤務者は18人であるが、空港関連では羽田空港など東京通勤者もいる。また、既に退職している世帯主は30世帯で31.3%を占める。

成田空港や空港関連企業に勤務する以外の世帯は39世帯であるが、千葉県職員や郵便局員、一般企業などもみられた。配偶者に関しては、専業

第1表 成田ニュータウンにおけるアンケート回答世帯の世帯主の年齢（2009年）

年齢	夫婦のみ の世帯	夫婦と 就学児の 世帯	その他 の世帯	合計	(%)
30歳代以下		10	1	11	(11.4)
40歳代		14	2	16	(16.7)
50歳代	6	13	1	20	(20.8)
60歳代	17	11	2	30	(31.3)
70歳代以上	13		4	17	(17.7)
不明		1	1	2	(2.1)
合計 (%)	36	49	11	96	(100)

(アンケート調査により作成)

第2表 成田ニュータウンにおけるアンケート回答世帯の現住所への入居時期と住宅の所有形態（2009年）

入居年	新築 住宅 購入	中古 住宅 購入	不明	合計	(%)
1970年代	2			2	(2.1)
1980年代	35	2		37	(38.5)
1990年代	14	7		21	(21.9)
2000年代	23	9	1	33	(34.3)
不明			3	3	(3.1)
合計 (%)	74	18	4	96	(100)

(アンケート調査により作成)

主婦が大半を占めており、会社員と専業主婦のファミリーが多いという郊外居住者の特性は成田ニュータウンにおいても確認された。

### II-3 居住経歴

第4表は、アンケート回答世帯の前住地とその居住形態を示している。成田ニュータウンからの転居が34.4%となっており、多くの世帯が成田ニュータウン内で移動している。特に、賃貸住宅や公営の雇用促進住宅、県営住宅などに結婚時に転入し、その後住宅購入をするものや、寮・社宅などから住宅購入するものが多く確認できた。

次に、アンケート回答世帯のライフパスを第2図に示した。左の世帯主を見ると、大学進学時か

ら活発な移動傾向を示した。また、結婚時にも、様々な地域に移動がみられた。これらの移動傾向は、空港関連企業に従事する世帯主の場合、国内の空港への転勤による転居が多いことが影響していると考えられる。成田ニュータウンへの移動は、最初の住宅購入時が最も多いが、結婚時に成田ニュータウンへ移動している人も少なくない。また、成田ニュータウン内で転居を繰り返す人が多い事が分かる。一方、配偶者は結婚時まで移動回数は少なく、家族への随伴移動が主であると考えられる。

### III 成田ニュータウンにおけるコミュニティ活動

本章では、成田ニュータウンにおけるコミュニティ活動について、その種類別に居住者の参加頻度や活動内容を明らかにする。本章における分析では、世帯主および配偶者のそれぞれから得られた回答を合算して分析する。また、回答数が設問によって異なるため、各設問に得られた回答を分析する。

#### III-1 コミュニティ活動の概観

成田ニュータウンにおけるコミュニティ活動には大きく分けて二つの種類がある。第一は、自治会や町内会など、地区内の住民が主体となって、地区内の生活利便性の向上などを行政と連携して行うものである。活動の範囲や構成員は同じ地区内に居住しており、地縁によってまとまった活動

第3表 成田ニュータウンにおけるアンケート回答世帯の世帯主の職業および就業地（2009年）

就業地	航空会社	航空関連産業	その他就業	退職者無職	不明	合計
成田NT	12	4	2			18
成田市	1		5			6
千葉県		1	16			17
東京都	4	1	10			15
その他			5			5
不明	1		1	30	3	35
合計	18	6	39	30	3	96

注1) NTは成田ニュータウンを表す。

注2) 成田市には成田ニュータウンを含まず、千葉県には成田市を含まない。

(アンケート調査により作成)

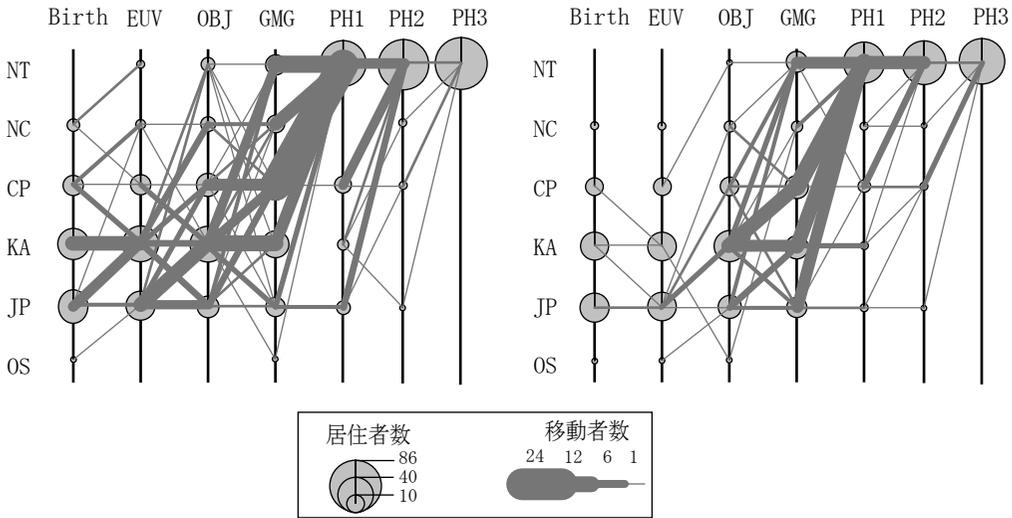
第4表 成田ニュータウンにおけるアンケート回答世帯の前住地および前住居の居住形態（2009年）

居住地	借家			持ち家		不明	合計(%)
	戸建住宅	アパート	社宅	戸建住宅	分譲マンション		
成田NT	(0)	12(48.0)	9(36.0)	3(21.4)	9(60.0)	(0)	33(34.4)
成田市	3(60.0)	4(16.0)	6(24.0)	1(7.1)	3(20.0)	(0)	17(17.7)
千葉県	2(40.0)	7(28.0)	7(28.0)	7(50.0)	3(20.0)	1(8.3)	27(28.1)
その他	(0)	2(8.0)	3(12.0)	3(21.4)	(0)	5(41.7)	13(13.5)
不明	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	6(50.0)	6(6.3)
合計 (%)	5(100)	25(100)	25(100)	14(100)	15(100)	12(100)	96(100)

注) 成田市に成田NTは含まず、千葉県に成田市は含まず、その他に千葉県は含まない。

世帯主 (n=86)

配偶者 (n=65)



第2図 成田ニュータウンにおけるアンケート回答世帯の居住経験（2009年）

- 注1) NT：成田ニュータウン，NC：成田市（成田ニュータウンを除く），JP：日本（関東を除く），OS：海外，EUV：大学進学時，OBJ：就業時，GMG：結婚時，PH1：1回目の住宅購入を表す。  
 注2) 世帯主または配偶者のいずれかだけが回答している場合があるため，世帯主と配偶者の総数は一致していない。

（アンケート調査により作成）

である。第二は、成田ニュータウン内の施設を利用して活動する趣味の活動やサークル等であり、必ずしも同じ地区内に居住するものが集まるわけではない。ここでは前者をコミュニティ活動、後者をサークル活動と区別して扱う。

コミュニティ活動の主体となっているのは、成田ニュータウン内の各地区の住民からなる自治会および町内会であり、自治会・町内会はそれぞれ自主防災組織、婦人会、老人クラブ（豊令会）等の活動も展開している。これらの自治会・町内会の多くは、成田ニュータウン自治会連合会に加盟しており、自治会連合会を通じて成田ニュータウン居住者の要望を行政に伝え、また行政からの情報やサービスが提供される。この自治会連合会を主軸に、地域環境整備事業、地域環境美化運動（街角クリーン作戦）、成田ニュータウン防犯パトロール隊、青少年健全育成協議会、成田市敬老会等の活動が行われている。

サークル活動は、活動範囲がコミュニティ活動

と重複する部分も存在するが、地区単位を超えたより広範囲の住民同士をつなぐ役割を持っている。また、「成田ふるさと祭り」や「公民館祭り」といった成田ニュータウンにおいて開催される各種イベントは、成田ニュータウン自治会連合会および成田ニュータウン内のサークルが主体となって行われるものが多い。そのため、これら二つのコミュニティ活動は、成田ニュータウン居住者が地域に参加する際の重要な機会となると考えられる。

### Ⅲ-2 コミュニティ活動への参加

#### 1) コミュニティ活動

第5表は、居住者のコミュニティ活動への参加経験を示すものである。自治会・町内会主催の活動と自治会連合会主催の活動に分類した。各地区における自治会・町内会の参加率および役員参加率はいずれも非常に高い。A・B・C地区の参加率は回答者の85%以上であるのに対し、D地区は58.3%とやや低い。これは、D地区への入居が開

始したのが2005年であるため、コミュニティがまだ成熟していないことを示している。D地区においては、マンション管理組合に加えて、自治会が組織されているため、同時期に分譲された周辺の集合住宅と比較すると、自治会・町内会への参加率は高いものと考えられる。

次に、各自治会の自主防災組織、成田ニュータウン自治会連合会主催の地域環境美化運動、成田ニュータウン防犯パトロール隊、地域環境整備事業等の活動参加経験を示す。各自治会の自主防災組織への参加割合は、1970～80年代に入居を開始した戸建て住宅地区であるA地区は21.9%、1980年代から近年まで分譲された戸建て住宅地区であるC地区は10.4%を示した。また、1980年代に

分譲された集合住宅地区であるB地区は45.7%、2005年に分譲された集合住宅地区であるD地区は33.3%を示した。集合住宅地区の方が、戸建て住宅の地区よりも高い値を示し、防犯意識が高いことがわかった。

一方で、地域環境美化運動への参加率は、A地区（78.1%）およびC地区（79.1%）の戸建て住宅地区で高い値を示したのに対し、B地区（48.6%）およびD地区（41.7%）の集合住宅地区では、低い値となった。分譲の集合住宅の場合は資産価値の維持に影響する部分が住棟の外観や共用部分および各住戸が中心となるのに対し、戸建て住宅地区では、各住宅だけではなく、庭や街区全体の特性が影響するため、このような差異が生ま

第5表 成田ニュータウンにおけるアンケート回答者のコミュニティ活動への参加経験（2009年）

コミュニティ活動		A地区 (n=32)		B地区 (n=35)		C地区 (n=67)		D地区 (n=12)	
		参加	役員	参加	役員	参加	役員	参加	役員
自治会主催	自治会・町内会	31	25	30	24	60	53	7	7
	自主防災組織	7	3	16	11	7	2	4	1
	婦人会	2		2	1	2	2	1	1
	老人クラブ			4	3	6	5		
自治会連合会主催	自治会連合会	4	4	4	2	5	2		
	地域環境美化運動	25	14	17	4	53	28	5	1
	成田NT防犯パトロール隊	14	11	11	4	21	12	1	1
	地域環境整備事業	2	2	2	1	5	1		
	青少年健全育成協議会	3	1	1	1	3	3	1	
	成田市敬老会	1		3	1	4	1		
	成田ふるさと祭り	28	18	28	13	52	27	8	1

注1) 各地区における総回答者数（n）は、アンケートの本設問に回答した世帯主および配偶者の数を表す。

注2) 複数回答による。

注3) 「参加」は、単に参加したことがあるものを、「役員」は役員として参加したことがあるものを表す。

（アンケート調査により作成）

れたと考えられる。

A・B地区では、成田ニュータウン防犯パトロール隊への参加率が高く、居住期間が長い居住者の多い地区ほど、成田ニュータウン全体で行われる活動へ参加する割合が高いことが分かる。しかし、入居から間もないD地区では、各自治会を単位とした活動への参加割合は高いものの、自治会連合会主催の活動や成田ニュータウン全体で組織される活動への参加は進んでいない。居住期間が長くなるほど、自治会単位の活動に加えて自治会連合会などが主催する活動にも参加する傾向が確認された。また、これは自治会の婦人会、自治会の老人クラブ、連合会主催の青少年健全育成協議会、成田市敬老会への参加頻度に対しても共通である。自治会連合会主催の成田ふるさと祭りへの参加率は、自治会・町内会への参加率とやや同数で、全地区ともに参加率が高い。

## 2) サークル活動

次に第6表は、アンケート回答者のサークル活動の内容(a)、参加頻度(b)、開始時期(c)、活動場所(d)、開始理由(e)を表している。活動内容は、体操や野球、テニス、バレーボール等のスポーツ・レクリエーションが最多であり、次に手芸、室内遊戯、楽器演奏、料理クラブ等の趣味活動であった。またここでいう一般教養とは勉強会、英会話、ペン習字等である。参加頻度は、A・C地区において月4回以上が50%以上を占め、頻繁にサークル活動を行っている。また、総じてコミュニティ活動よりも頻繁にサークル活動が行われている。コミュニティ活動と同様に、A・B地区では、居住期間の長い世帯も多く居住していることから、地区内の活動が契機となってサークル活動を開始するものが多い。

C地区では、分譲期間が長く居住者の年齢構成が幅広いことに加え、サークル活動の拠点となる中央公民館や社会福祉館などの施設に近接していることから、各施設で開催されている活動情報を得やすく、活動自体への興味から参加する例がみられた。C地区に居住する元航空会社に勤務し現

在は退職した男性の事例を示す。彼は、航空会社勤務していた時代の友人との交流が多いものの、日常的な活動として中央公民館において囲碁サークルに所属し、週に3回以上囲碁をしていた。

また、居住期間が短く、就労期の家族世帯の多いD地区においては、成田ニュータウンの既存のサークルに参加することだけではなく、自身がサークルを主催し、活動の拠点として成田ニュータウンの施設を利用する例がみられた。D地区の居住する航空会社勤務の男性は、沖縄音楽を行うサークルを主催しており、成田ニュータウンの中央公民館のほか佐倉市など周辺市町村においても活動を行っていた。沖縄音楽のサークルは、成田ニュータウン居住者だけではなく、インターネットなどで情報を得た会員が千葉県内や東京都内からも集まり活動していた。

活動開始時期に関しては、2000年以降と答えた住民が最も多い。A・B地区での2000年以降と回答した割合は約40%であるのに対し、C・D地区では約70%であった。1980年代と答えた住民ではA地区が最も多かった。A地区居住者へのインタビューでは、子育て期に子を中心とした野球チームを作成し、子が成人した後も子や親が交流のために活動を継続している例があった。このように子育て期に当たる1980年代に開始した活動が居住者の成長に合わせて形を変え、サークル活動として残ったものがある。

活動場所に関しては、成田ニュータウン内で行われる活動が多い。特に、町内の公民館よりも成田ニュータウン内の他の公民館や施設を利用すると回答した人が多いことから、地区の単位を超えた成田ニュータウン内の人々の交流が盛んであることが確認できた。また「その他」という回答には隣の市や千葉県外にまで活動範囲が及ぶ人が少数含まれていたが、彼らは主にC・D地区の住民であり、成田ニュータウンに転居する以前に開始した活動を継続しているものと考えられる。最後にサークル活動の開始理由であるが、「活動に興味があった」が最も多い回答となっている。「活動場所が家に近い」という理由も重要な一要因に

第6表 成田ニュータウンにおけるアンケート回答者のサークル活動への参加状況（2009年）

a. 活動内容					d. 活動場所				
	A地区	B地区	C地区	D地区		A地区 (n=14)	B地区 (n=9)	C地区 (n=17)	D地区 (n=3)
スポーツ・レクリエーション	9	4	6	2	町内の公民館	2	2	3	1
趣味	4	4	3	1	成田NT内の公民館	5	3	9	1
一般教養			5		成田NT内の他の施設	6	3	5	
ボランティア活動		1	2		その他・不明	1	4	4	2
不明	1		1		合計	14	12	21	4
合計	14	9	17	3					
b. 参加頻度					e. 開始理由				
	A地区	B地区	C地区	D地区		A地区 (n=14)	B地区 (n=9)	C地区 (n=17)	D地区 (n=3)
月1回以下	3	1	1	1	活動に興味があった	8	6	14	3
月2・3回	4	5	6	1	活動場所が家に近い	6	2	6	2
月4回以上	7	3	10	1	友人を作るため	2	2	3	
合計	14	9	17	3	知人・友人の勧め	3	3	1	1
c. 開始時期					家族の勧め	1			
	A地区	B地区	C地区	D地区	その他・不明	2	1	2	1
1980年代	5	1	1		合計	22	14	26	7
1990年代	2	3	4	1					
2000年以降	6	4	12	2					
不明	1	1							
合計	14	9	17	3					

注1) 各地区における回答者数（n）は、アンケートの本設問に回答した世帯主および配偶者の数を表す。

注2) d. 活動場所およびe. 開始理由は、複数回答による。（アンケート調査により作成）

なっているが、上述のように必ずしも活動場所が町内にあるとは限らないためか、活動への興味ほど回答数は多くない。次に多かった理由として「友人を作るため」が挙げられ、A・B・C地区の居住者に多くみられた。「知人・友人の勧め」、「家族の勧め」といった理由がこれに続く。

### Ⅲ-3 居住者の友人関係

アンケート調査に回答したA地区居住者の平均の友人数は13.3人、B地区は16.1人、C地区は15.6人、そしてD地区は17.9人であった。これらの友人の居住地は（第7表）、同じ町内に居住するものが多く、A地区では友人の47.3%が、B地区では42.2%と高い比率であった。一方で、C地区（友

人の32.9%）およびD地区（同じく13.9%）では、A・B地区よりも低い値であった。しかし、町外で成田ニュータウン内に居住する友人の割合は、A・C・D地区ともにほぼ並列であった。これは、各地区ともに成田空港やその関連企業に従事する世帯が多いことから、成田ニュータウン内において、地縁による人間関係と職縁による人間関係が一致する割合が高いためであると考えられる。

友人と知り合ったきっかけを示した第8表によると、現住居への居住期間が長い居住者の友人関係は、同じ町内におけるコミュニティ活動や、ニュータウン内のサークル活動をきっかけとして地縁が形成されていくことと強い関係がみられる。A地区に居住し、郵便局員を定年退職した

第7表 成田ニュータウンにおけるアンケート回答者の友人の居住地 (2009年)

各地区の居住者の友人の居住地	A地区 (n=28) (%)	B地区 (n=31) (%)	C地区 (n=62) (%)	D地区 (n=15) (%)
町内	47.3	42.2	32.9	13.9
町外で成田NT内	34.7	38.9	34.3	34.7
その他	18.0	18.9	32.8	51.4
合計 (%)	100	100	100	100

注) 各地区における総回答者数 (n) は、アンケートの本設問に回答した世帯主および配偶者の数を表す。数値は、回答者全友人数に占める割合を表す。  
(アンケート調査により作成)

男性は、区内の自治会活動などを通じて友人となった居住者と頻繁に麻雀をしたり、ゴルフ旅行に出かけたりしている。その他、スポーツを行うサークル活動もこれらと同じ友人を中心に結成しており、区内の自治会活動を契機として友人関係が拡大していった。

B地区においては、管理組合の役員を経験した居住者が「吾楽会」という会を結成している。「吾楽会」のメンバーはほぼ男性であり、現在は定年退職をしているものが多いが、頻繁に親睦会を開催するほか、「成田ふるさと祭り」への出店など

第8表 成田ニュータウンにおけるアンケート回答者の友人と知り合ったきっかけ (2009年)

a. A地区 (回答者n=28, 友人総数372人)							b. B地区 (回答者n=32, 友人総数509人)						
友人数(人)	1-5 n=9	6-10 n=10	11-20 n=5	21-30 n=2	31-40 n=1	41-50 n=1	友人数(人)	1-5 n=14	6-10 n=9	11-20 n=4	21-30 n=1	31-40 n=2	100 n=2
コミュニティ活動による	17	30	10	30	40	20	コミュニティ活動による	15	10	16	30	20	
サークル活動による	1	13	41	23		10	サークル活動による	12	15	11		40	30
子供関係による	3	16	33	12			子供関係による	19	13	19		6	
職業・仕事による	11	5	15	25		6	職業・仕事による	22	13	21		30	70
学生時代の友人	5	17		10		2	学生時代の友人	2	2	8		7	20
その他	1	30				8	その他	4	30	8			80
友人総数	38	93	95	60	40	46	友人総数	55	83	63	30	78	200

c. C地区 (回答者n=62, 友人総数975人)							d. D地区 (回答者n=15, 友人総数280人)						
友人数(人)	1-5 n=12	6-10 n=17	11-20 n=21	21-30 n=9	40-50 n=2	70-80 n=1	友人数(人)	1-5 n=3	6-10 n=6	11-20 n=2	21-30 n=1	41-50 n=2	51-60 n=1
コミュニティ活動による	13	7	61	36	3	12	コミュニティ活動による		1	2			5
サークル活動による		16	57	65	37	19	サークル活動による						40
子供関係による	7	26	71	77	10	13	子供関係による	1	6	13	30	10	1
職業・仕事による	10	45	71	61	10	13	職業・仕事による	3	23	10		60	4
学生時代の友人	5	9	60	19		20	学生時代の友人	6	1	8			5
その他	7	37	44	3	30	10	その他	1	21			30	
友人総数	40	140	364	261	90	80	友人総数	10	52	33	30	100	55

注1) nはアンケートの本設問に回答した世帯主および配偶者の数を表す。

注2) 知り合ったきっかけは、同じ友人に対して複数回答による。

注3) 友人数の最低は1人、最高は100人である。

(アンケート調査により作成)

の活動を通して、メンバー自身の生きがいと地域への貢献を果たしている。結成当初は、管理組合の役員経験者として、新役員の相談役にあたるのが目的であった。また、空港関連企業に就業する居住者は、勤務体系によって帰宅時間が不規則であり、同じ資産を共有する居住者同士が顔を合わせる機会が少なくなってしまうこともあり、親睦を深めるためにも大きな役割を果たしてきた。「吾楽会」に参加することで、地区内のコミュニティ活動を通じて知り合った居住者同士につながりが生まれていた。

D地区においては、子育て期にある居住者が多いこともあり、PTAなどの父母会経験者による同窓会組織のような活動がみられた。PTA活動に参加した父親を主体とする団体の「おやじの会」がその例である。自治会連合会会長によると、就労期にある男性が参加する「おやじの会」は、D地区をはじめ、現在成田ニュータウン内に4団体結成されている。D地区に居住する男性は、子の小学校在籍時にPTA活動に参加した。役員としての活動を通じて知り合った父兄との交流の中で、“お母さんたちだけでなく、自分たち（父親）にできることをやろう”，という意識をもったことから、「おやじの会」を結成していた。「おやじの会」はメンバーの親睦のほか、小学校行事への参加や「成田ふるさと祭り」における出店などを通じて地域の子を守り育てる役割を担っていた。子を通じての友人は、B・C・D地区ともに一定数あった。

次に、B・C・D地区の住民にとって、仕事を通じて知り合った友人が最も多い。これはこの3地区において居住者の多くが就労期にあるためである。B地区においては、就労期の世帯の居住に加え、退職後も仕事を通じて知り合った友人と交流を持つ居住者が多いために割合が高くなっているが、A地区では低い値を示した。インタビュー調査においては、A地区の居住者は、成田空港およびその関連産業への従事者よりも千葉県内の一般企業や公務員、自営業者が多い傾向がみられた。成田空港やその関連企業に勤務する居住者は、成

田ニュータウン内の社宅を経て住宅購入している者が一定数いるために、職縁による友人が地区内の友人と重複するケースが多い。しかし、その他の職業では、職縁による友人が地区内の居住者と必ずしも重複しないため、地区内で形成された友人関係が多くなると考えられる。

学生時代の友人に関する項目では、D地区が最も多く、続いて同様に新しい地区であるC地区であり、若い世帯が多いほど学生時代からの友人数が多くなっていた。D地区に居住する女性は、成田市内に両親が居住しており、結婚を契機に成田ニュータウンに転居した。女性の一番の友人は、学生時代からの友人であり、その友人も成田ニュータウン内のD地区周辺に居住していた<sup>4)</sup>。この女性は、2005年にD地区に入居したが、結婚・出産のために地域活動やサークル活動に頻繁に参加することが困難であったため、学生時代からの友人との交流が中心となっている。

#### IV 成田ふるさと祭りの運営と住民参加

本章においては、成田ニュータウンにおいて重要な地域イベントである「成田ふるさと祭り」の運営に関わるコミュニティ活動や居住者の団体の特性を示し、成田ニュータウンにおけるコミュニティ活動の特性を明らかにする。

##### IV-1 成田ふるさと祭りの運営

成田ふるさと祭りは、成田ニュータウンの居住者が運営にあたる重要な地域行事である（写真1）。毎年8月下旬の2～3日に渡って開催され、期間中約10万人が来場する。祭りの来場者の居住地は、成田ニュータウンが約60%、その他の成田市内が約30%、その他周辺地域が約10%（2007年成田ふるさと祭り実行委員会資料による）である。成田ふるさと祭りは、地域住民の連携を図ることを目的に始まり、2009年に30周年を迎えた。西口大通り上のボンベルタ前から京葉銀行前にかけての通りにおいて出店やパレードなどが行われ、地区センター広場およびボンベルタ前広場には3つ



写真1 成田ふるさと祭りの会場  
(2009年8月 久保撮影)

のステージを設けて演技が行われている(第3図)。

成田ふるさと祭りは、成田ニュータウン自治会連合会に加盟する約35の自治会・町内会により運営されている。第4図は2007年における成田ふるさと祭り実行委員会の組織図である。成田ニュータウン自治会連合会の会長を実行委員長におき、参加自治会・町内会および実行委員を中心に運営を行っている。成田ニュータウン自治会連合会に加盟している自治会・町内会は、祭りの運営やテナント出店などを行う(写真2)。

第9表は2007年における収支の内訳である。成田ニュータウン自治会連合会に加入している各自治体・町内会からの分担金およびその居住世帯からのコミュニティ資金(500円/戸)が主たる収入である。さらに、市内200以上の企業や個人からの寄付金、市からの補助金等に加え、2007年からはスポンサーを募り広告料として資金を集めている。

寄付金・祝金(第10表)や協賛企業(第11表)は、成田市内の企業もしくは成田市に支社をもつ企業の参加が多数である。その業種は銀行・郵便局、病院・医院、建設業など様々であった。空港関連企業・ホテルは寄付金の授与のほか、空港関連企業の従業員が祭りの際にテントを出店するなど、成田ふるさと祭りを支えている。さら

に、福引抽選会<sup>5)</sup>の際の福引景品の提供(第12表)も行っている。福引景品の提供は、成田ニュータウン内に出店しているボンベルタ、カスミヤ、成田市内の老舗飲食店である川豊や橋本家なども行っている。福引の際には、自治会連合会の役員らが、順次くじを引いていく。祭り後半の特設ステージには、福引に応募した居住者が集合するため、独特の熱気に包まれていた(写真3)。

2005年からは、祭りオリジナルのTシャツを発売している。このTシャツは、成田ニュータウン内に拠点をもつ障害者団体が作製しており、嗜好を凝らしたデザインやカラーバリエーションで人気を博している。スタッフとして参加する居住者は、このTシャツを着用し、各種作業に参加する。

#### Ⅳ-2 成田ふるさと祭りへの実行委員会の取り組み

成田ふるさと祭りの自治会連合会、実行委員は「明るく安心安全な祭り」「ゴミのないきれいな祭り」を目指すことで「地域に密着した祭り」を成功させようとしている。

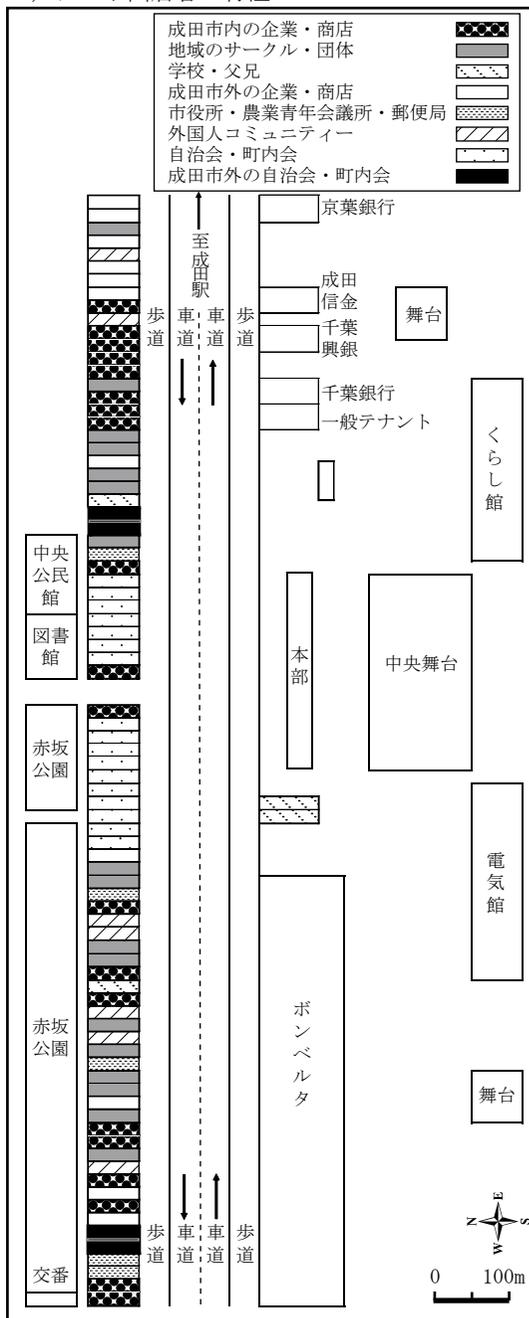
「明るく安心安全な祭り」として行っている対策の第一は防犯の強化である。成田警察署と綿密な打ち合わせを行い、地域課・交通課の指導のもと防犯指導員100名ほどが会場内を巡回しパトロールを徹底している(写真4)。また警備会社と契約し、交通規制を徹底している。また、明るい祭りの実現のために、街灯を増設し、歩行者天国内の照明を増設した(写真5)。さらに危険回避のために、会場内の危険な箇所に対してネットを張るほか、2005年より会場内の禁煙化と喫煙場所の設置なども行っている。以下に示すのは、平成17年の自治会連合会の議案で出された居住者からの祭りへの要望である。

会場は当日大勢の人でにぎわうため、会場での歩きたばこは子どもの目線の高さになり、たいへん危険である。(平成18年度第28回定期総会 議案書 平成17年度事業報告、成田ニュータウン自

a) 会場全体図

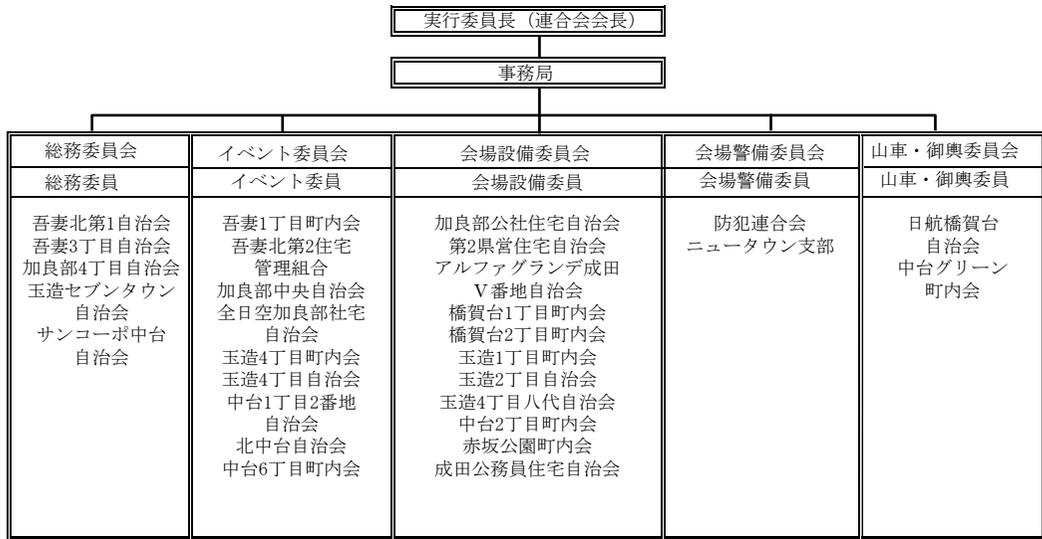


b) テント出店者の特性



第3図 成田ふるさと祭りの会場とテント出店者の特性 (2008年)

(成田ふるさとまつり2008 一般・サークル出店届け, 自治会出店届け, テナント配置一覧表により作成)



第4図 成田ふるさと祭り実行委員会の組織図（2007年）

注）この他自治会連合会に参加している自治会・町内会は各戸500円の協賛金を負担している。

（2007年度自治会連合会成田ふるさと祭り議事録および自治会・連合会資料により作成）



写真2 自治会や市職員によるテント  
（2009年8月 久保撮影）

自治会連合会）

このように居住者からの意見を迅速に祭りの運営に生かしていくことによって、祭りの安心安全が守られている。さらに、祭り当日は、全テントの代表者を日に数回集めて、実行委員会からの注意や、交通規制および観光客の入場状況などのアナウンスがなされる。これにより、全テント出店者への情報伝達が徹底され、祭りの安心安全が管理されている。

第9表 成田ふるさと祭りにおける収入内訳  
（2007年）

収入内容	収入額 (千円)
補助金 （コミュニティ資金） （ポスター補助金）	6,038
分担金	4,084
寄付金 （協賛金） （祝儀）	1,985
その他収入 （ロードトレイン収入） （テナント出店料） （キャラクターショー負担） （福引景品） （Tシャツ販売収入） （電気使用量） （臨時電話補償金） （利息）	2,517
広告	851
前年度繰越金	3,692
収入計	19,167
支出計	15,274
次年度繰越	3,893

（成田ふるさとまつり2007 収支決算報告書により作成）

第10表 成田ふるさと祭りにおける  
業種別寄付金・祝儀の受領件数  
(2006年)

業種	企業・団体数 (%)
成田NT内に支店をもつ企業	42 (23.5)
建設業・不動産・造園業, 上下水道, 電気, ガス会社	39 (21.8)
成田市内企業	37 (20.7)
病院・医院	24 (13.4)
市議会, 区長, 顧問, 行政関係	17 (9.5)
空港関連企業・ホテル	11 (6.1)
銀行・郵便局	9 (5.0)
合計 (%)	179 (100)

(成田ふるさとまつり2006 寄付金・祝儀受領先一覧  
により作成)

第11表 成田ふるさと祭りにおける業種別  
協賛者および企業の数 (2004年)

業種	企業数 (%)
成田市内企業	58 (27.2)
建設業・不動産・造園業, 上下水道, 電気, ガス会社	57 (26.8)
成田NT内に支店を持つ企業	47 (22.0)
病院・医院	24 (11.3)
空港関連企業・ホテル	16 (7.5)
銀行・郵便局	10 (4.7)
市議会, 区長, 顧問, 役所関係	1 (0.5)
合計 (%)	213 (100)

(成田ふるさとまつり2004 協賛者名簿により作成)

次に、「ゴミのないきれいな祭り」として、2000年頃からゴミ用のかごに車輪をつけたものをスタッフが持ち、会場内を巡回する方式を採用した(写真6)。以前はゴミステーションを設けた方式を取っていたが、ゴミがあふれ美観を損なうため、巡回方式に変更された。また、テナントからでるゴミは図書館付近の一ヶ所に集められ日に数回収を行っている。また、2009年からは、ペットボトルのキャップ回収も行っている。

最後に、「地域に密着した祭り」に関しては、成田ニュータウン内の各自治会・町内会は、祭り

第12表 成田ふるさと祭りにおける  
福引抽選会の景品一覧 (2008年)

賞品名称	景品
<b>1. 自治会連合会「特別賞」</b>	
まつり大賞・グランプリ	商品券 (10万円)
ふるさと・ハッピー賞	商品券 (3万円)
ニュータウン・スマイル賞	商品券 (2万円)
<b>2. 協賛各社「各賞」</b>	
NAA賞	商品券 (1万円)
NAAリレーリング賞	商品券 (1万円)
JAL賞	商品券 (1万円)
ANA賞	商品券 (1万円)
ANAクラウン7号 ザ・ホテル成田賞	ペア食事券
ホテル日航成田賞	ペア食事券
マロードインター ナショナル成田賞	エステ券
成田ビューホテル賞	ペア食事券
成田エクセル東急賞	ペア食事券
メルキュールホテル成田賞	ペア食事券
下総朝市組合賞	煎餅・トマト
大塚製菓賞	ドリンク24本入
明治製菓賞	お菓子詰合せ
麦家賞	ラーメン券
<b>3. お楽しみ「ラッキー賞」</b>	
ボンベルタ商品券	商品券 (5000円)
カスミ商品券	商品券 (5000円)
下田康生堂食事券	食事券 (3000円)
川豊食事券	食事券 (3000円)
橋本家さしみ盛り合わせ	2000円相当
お楽しみお買い物券	商品券 (2000円)
お楽しみお買い物券	商品券 (1000円)

(成田ふるさと祭り2008 福引抽選会景品  
一覧表により作成)

の運営の他に、出店、休憩所・サロンとしてテントを設けている。第13表は2007年に出店もしくは休憩所・サロンを設けた業種別参加企業およびサークル・団体、自治会・町内会の数である。出店テナントは連合会加盟の自治体・町内会を優先に、成田市に居住する個人もしくはサークルが中心となっている。これらの出店者は、ニュータウン居住者の楽しみや交流の場としてテントを設け、ふるさと祭りを盛り上げている。毎年約15の自治会・町内会と約50の個人およびサークルが出店している。

出店しているテントには成田市に居住している外国人によるテントもみられた(写真7)。外国人居住者によるテントの出店は、中央公民館で交流をしているペルー、フィリピン、メキシコ出



写真3 抽選会場の様子  
(2009年8月 久保撮影)



写真4 本部付近のテント  
(2009年8月 久保撮影)



写真5 夜間の街灯と安全への注意を呼びかける看板  
(2009年8月 久保撮影)

a) ボランティアによるごみ回収



b) 会場裏のごみ集積所



写真6 会場内のゴミ回収の様子  
(2009年8月 久保撮影)

第13表 成田ふるさと祭りにおける  
出店参加企業および団体 (2007年)

参加団体及び企業の種類	参加団体数 (%)
成田市内の企業・商店	16 (24.6)
自治会・町内会	15 (23.1)
地域のサークル・団体	11 (16.9)
成田市外の企業・商店	11 (16.9)
外国人コミュニティー	4 (6.2)
市役所・農業青年会議所・郵便局	3 (4.6)
学校・父兄	3 (4.6)
成田市外の自治会・町内会	2 (3.1)
合計 (%)	65 (100)

(成田ふるさとまつり2007 一般・サークル出店届け、  
成田ふるさとまつり2007 自治会出店届けにより作成)

身者のテナントを2001年に設けたことから始まり、現在まで継続している（平成15年度 自治会連合会定期総会 議案書 平成14年度事業報告）。2007年には4つの外国人居住者団体の参加がみられ、外国人居住者の参加者は増加傾向にある。

また、成田ふるさと祭りへの出店は、地場産業のPRとしての役割も期待されており、地域でとれた野菜や製品も販売されている。農業青年会議所が参加し、地元で取れた野菜の直売を行っている。祭りに参加している企業も宣伝効果を期待しており、会場内企業広告は2007年より開始された。成田ニュータウン外からの飲食店等の出店もみられるが、少数であった。2006年からは、成田ケーブルテレビによって祭り会場からテナントを宣伝するための生中継が行われている。

#### Ⅳ-3 成田ふるさと祭りへの住民参加

祭り会場には舞台が3つ設けられており、中学校のプラスバンド、中央公民館などで活動しているサークルが出演している（写真8）。出演者は成田ニュータウン居住者が中心であるが、年々出演希望のサークルが多くなっているという（平成20年度・第30回定期総会 議案書 平成19年度事業報告）。

第14表は2007年に舞台に出演したサークル・団体の数である。地元中学校のプラスバンド部を始

め、ダンスや音楽のサークル、成田エイサー美ら海会など県人会組織がみられる。また千葉県花笠会などのように、千葉県や他府県に拠点をおくサークルの参加もみられた。

第15表は成田ふるさと祭りへの住民の参加頻度である。各地区ともに、出店者・演奏者やスタッフとしての参加よりも、見物客としての参加が多数である。参加頻度の項目ごとにみていくと、A地区とC地区の居住者は出店者・演奏者、スタッフとしての参加が、B地区、D地区の居住者は見物客としての参加が多い。世帯主（全て男性）の参加が配偶者の参加に比べ多いことは特筆すべき点であろう。配偶者の参加は各地区ともに見物客としての参加が多数を占めるが、世帯主は出店者・出演者、スタッフとして携わる頻度が多く、さらに見物客としての参加も配偶者に比べ盛んであ



写真7 外国人居住者によるテント  
(2009年8月 久保撮影)



写真8 中央ステージでのサークル活動の発表  
(2009年8月 久保撮影)

る。「成田ふるさとまつり一般・サークル出店届け（2007年）」および2007年の「成田ふるさとまつりパンフレット」によると、テント出店者やステージ出演者の中には、「おやじの会」や中年男性のバンドグループ「KSO2」、「吾楽会」といった男性が中心となって参加しているものがあり、男性居住者が祭りに積極的に参加する様子が確認できた（写真9）。

成田ふるさと祭りでは問題の一つに挙げられているのは、自治会連合会に非加盟の自治会・町内

会の存在である。自治会連合会に非加盟の自治会・町内会の世帯数は2007年で2,381世帯である（2007年、自治会連合会7月定例会 資料による）。2007年時点でのニュータウン内の世帯数は14,373世帯であり、16.5%の世帯が自治会連合会に未加入であることになる。自治会連合会に加盟している自治会・町内会を通じて配布する福引抽選券について、連合会に非加盟な自治会・町内会や一般住民からの抽選券への問い合わせが多くなっており、自治会連合会では未加入自治会への加入呼びかけを行うなどの対策をとっている（2005年、平成17年度・第27回定期総会 議案書 平成16年度事業報告）。また、今後の成田ふるさと祭りの果たす役割として、成田ニュータウン内の世代間交流への期待が挙げられている。

【今後のまつりについて】小学生・中学生のグループとしての参加を促進していきたいと考えます。各自治会・町内会で高齢化が進んでいる現状を考えると町内の融和・高齢者と若年層との交流を視野に入れた方向で行事を模索していきたいと考えております。

第14表 成田ふるさと祭りにおける  
出演サークル・団体数（2007年）

参加団体の種類	団体数（%）
地域住民によるサークル・団体	13 (50.0)
成田市の演芸団体・消防署ブラスバンド	4 (15.4)
中学校部活動	3 (11.5)
自治会・町内会の芸能保存会	2 (7.7)
千葉県・関東圏のサークル・団体	2 (7.7)
プロ演奏者	2 (7.7)
合計（%）	26 (100)

（成田ふるさとまつり2007 パンフレットにより作成）

第15表 成田ニュータウンにおけるアンケート回答世帯の  
成田ふるさと祭りへの参加頻度（2009年）居住経験（2009年）

参加頻度	出店者・演者として				スタッフとして				見物客として															
	世帯主		配偶者		世帯主		配偶者		世帯主		配偶者													
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D												
ほぼ毎回参加する	3				1					7	14	23	5	4	12	23	5							
2～3回に一度参加する	1	1				1	2	2		1	5	3	2		3	2	1							
数回参加したことがある	10	4	8		7	2	10		11	4	12	2	9	3	12	1	2	2	9	2	6	2	6	2
参加したことがない	1	9	15	4	3	10	12	6	3	7	13	3	3	10	11	5	1	1		1				
不明	7	11	14	7	12	12	14	5	6	11	10	6	11	11	12	5	7	4	4	3	10	8	6	4
合計	22	24	38	11	23	24	36	11	22	24	38	11	23	24	36	11	22	24	38	11	23	24	36	11

注1) アンケートの本設問に対する各地区における回答者数は、A地区は45人（世帯主22人；配偶者23人）、B地区は48人（世帯主24人；配偶者24人）、C地区は74人（世帯主38人；配偶者36人）、D地区22人（世帯主11人；配偶者11人）である。

注2) 「出店者・演者として」、「スタッフとして」、「見物客として」の参加頻度について、世帯主および配偶者から得られた回答をそれぞれ集計した。

（アンケート調査により作成）



写真9 「吾楽会」のテント  
(2009年8月 久保撮影)

また、まつりに高齢者が気軽に参加でき、楽しむことは何か、またどうしたら参加することができるのかを考えていきたいと思います。

—中略—

現在のまつり運営はまつり委員の皆さまを中心にしておりますが、今後は高校生の参加を仰ぎ、本部運営の中での若い力の活用と世代の継承をはかることを進めてはと考える、ふるさとまつり2006ではニュータウン内の高校生に声をかけ、実施していきたいと思います。(平成18年度・第28回定期総会 議案書 平成17年度事業報告)

成田ふるさと祭りでは、成田ニュータウン自治会連合会が所有する神輿のほか、加良部地区の自治会が所有する神輿や子供神輿が会場を練り歩く(写真10)。2009年の祭りにおいては、橋賀台地区に居住する小学生によって担がれた子供神輿が祭会場を練り歩き、その後居住地区内の祭りを盛り上げるために橋賀台地区までみこしを担ぐ姿がみられた。橋賀台地区は、成田ニュータウンの開発の初期に分譲された戸建て住宅と空港関連企業の社宅、URによる賃貸住宅が立地する地区である。居住形態や分譲時期によって同じ地区内でも居住者の住民構成に差異がみられる地区において、祭りを通じた世代間交流が図られていた。



写真10 成田ニュータウン自治会連合会の神輿  
(2009年8月 久保撮影)

#### Ⅳ-4 成田ふるさと祭りへの参加と地域への定着

成田ニュータウンにおいては、男性の地域活動参加が顕著であり、自治会連合会への参加をはじめ、「おやじの会」や「吾楽会」といった、地域貢献や居住者交流のための活動が確認できた。成田ニュータウンにおいては、若年から高齢期まで幅広い世代の男性居住者が容易に地域活動やサークル活動を通じて地域に関わっている。ここでは、居住者の事例から、成田ふるさとまつりへの参加を通して居住者が地域に根付いていく様子を示す。

成田ニュータウン自治会連合会の役員で、70歳の男性(A氏)の事例を示す。A氏は、1984年にA地区にて戸建て住宅を購入し、成田ニュータウンに転入した。世帯主・配偶者ともに東京都の出身であり、世帯主は成田ニュータウンへの転居以前に東京都内で就業していたが、千葉県内の東金に勤務地が変わり、現在は成田市内で書店・文具店を経営している。1999年頃から成田ニュータウン自治会連合会の役員に就任した。A氏が役員に就任して以来、成田ふるさと祭りは大きく進歩している。先述の「明るく安心安全な祭り」「ゴミのないきれいな祭り」、「地域に密着した祭り」という方針に則り、様々な方策を講じてきたのは、A氏をはじめとする自治会連合会の役員および各自治会・町内会の役員の尽力によるものである。

A氏の尽力に加え、成田ニュータウン自治会連合会の顧問を務めるニュータウン出身の市議会議員との連携が居住者ニーズを市政に反映させることに繋がっている。2009年時点においては、成田ニュータウン出身の市議会議員は7名であった。しかし、現職の議員だけでなく、議員経験者も積極的にニュータウン内の生活利便性向上に関わっている。例えば、市議会議員経験者が中心となって、閉鎖したショッピングセンターの跡地利用方を千葉県と連携して議論し、新しい形で再開させた玉造地区の事例がある。また、地区内の居住者の定住意識を調査し、居住者と居住地区の安全性や居住性を向上しようとした橋賀台地区などもある。

次に、B地区における「吾楽会」の会員の事例を示す。「吾楽会」のメンバーは、成田ふるさと祭りにおいて一番人気のテントを出店していた。「吾楽会」では、会員が景品を仕入れ、1回100円のくじ引きのテントを出店した。くじには外れがなく、必ずおもちや飲み物、駄菓子などをあてることができる。当日の売上は、すべて会員の飲食代などに充てられる。「吾楽会」の会員の一人は、売上目的ではなく、テントを出すことが会員の楽しみであると語った。「吾楽会」メンバーは、祭りへの出店などの活動を通して地域に親しみ友人関係を築き、地域に根付いていた。

「吾楽会」以外にも、A地区の出店したテントにおいても、女性居住者よりも男性居住者が積極的に働く姿がみられた。幅広い年代の男性が、コミュニティ活動に参加していく契機として、「おやじの会」や「吾楽会」を結成し、そのメンバーと共に成田ふるさと祭りへ参加している。成田ふるさと祭りへの出店は、居住者間の親睦を深め、地縁を築く役割を担っていると考えられ、地縁が形成されるにつれ男性居住者が成田ニュータウンへの愛着をはぐくんでいくものと考えられる。

成田ニュータウン自治会連合会の活動を充実させるリーダーであるA氏が、地域行事の発展に貢献し、自治会内の連携を強めたことによって、地域行事である成田ふるさと祭りが発展した。成田

ふるさと祭りが観光資源となりうるほどの集客を可能とする祭りに成長したことによって、成田市内に拠点を置く企業にとっての宣伝効果が増大した。また、コミュニティに参加する居住者にとっても、自身が楽しんで出店や参加をすることで居住者間の連携を深め、コミュニティに参加していく契機となっている。

## V 成田ニュータウンにおけるコミュニティ活動の特性

### V-1 住民の定着と地域への参加頻度

成田ニュータウンにおいては、居住地区によって地域活動への参加頻度に違いがみられた。つまり、居住期間の長い居住者が多い地区ほど、居住者のコミュニティ活動およびサークル活動の両面において、参加頻度が高くなる傾向がみられた。居住期間の短い世帯が多い地区においては、コミュニティ活動が成熟しておらず、地区内でのコミュニティ活動への参加頻度は少なかった。また、住宅購入時期が結婚や子の誕生および成長と重なるためにサークル活動を新規に始めにくいこともあり、サークル活動に関しても同様の傾向がみられた。友人関係については、居住期間が長くなるほど地区内の友人が増加しており、居住期間が短い世帯では、学生時代の友人などの方が多い傾向がみられた。これは、居住期間に加え、居住者の出身地にも影響される。成田ニュータウンの開発初期は、土地や住宅の価格が高騰し、通勤圏が広範囲に広がった時期であったため、東京都や千葉市などへの通勤者が居住者に含まれた。しかし、バブル経済期以後は土地価格が下落し、空港関連企業に従事する世帯を除けば、成田市およびその周辺からの転入が卓越していくからである。女性居住者では、成田市で生まれ育ち、学生時代からの友人が成田ニュータウン内に居住している例もあった。このような社会経済状況の変化の影響を受けた居住者特性差異が、友人関係に影響しているといえる。

## V-2 職住近接と男性居住者の地域活動参加

成田ニュータウンにおいては、男性居住者のコミュニティ参加が比較的活発であった。「おやじの会」や「吾楽会」などの活動に加え、自治会連合会役員についても男性会員が嗜好を凝らし、祭りの発展や居住者間の交流、地域貢献に励んでいる姿がみられた。

木村（2006）においては、郊外地域において男性退職者が、退職後に地域との接点を求めて地域活動に参加していく過程が明らかにされた。一般的に日本の多くの郊外住宅団地は大都市の都心部への通勤者のためのベッドタウンとして計画され、居住者の多くも、都心通勤の会社員の世帯が多い。そのため、定年退職を迎えるまでは地域活動などへ参加せず、定年退職を契機として地域と向き合うようになる。そして、自身の生活の充実のためだけでなく、就業時に培った知識や経験を地域貢献に生かしていこうとする傾向があった。

成田ニュータウンは、東京都心から50km圏に立地し、成田空港に近接するという背景から、当初から自立的な職住近接型の郊外住宅地として開発された。そのため、航空会社や空港関連企業が就業する男性の多くは、就業上の人間関係と地域での人間関係に大きな乖離がなく、地域内における人間関係が就業時から形成されている場合が多かった。また、空港関連産業従事者以外でも、就業地が成田市内である世帯が多いため、職縁と地縁とが一致しやすい条件がそろっていた。職縁と地縁が一致しやすいことで、男性の多くが就業時から地域内に組織を作り活躍しやすい状況ができたことが成田ニュータウンの特性であるといえる。

また、就業時から地域活動に参加する男性居住者の地縁を深める契機として、成田ふるさと祭りが果たす役割は大きい。つまり、単に職住近接の住宅地であるだけでなく、居住者が自ら地域に貢献する場所として祭りが機能している。また、その祭り自体を発展させていく要素として、成田ニュータウン出身の市議会議員や自治会連合会役員の尽力が大きい。さらに、成田市内に空港とい

う大きな産業があり、単に定期的に若年の就業者を地域貢献の人材として成田ニュータウンに送りこむだけではなく、空港関連企業が祭りなどの地域行事などに参加していることが重要な要素である。

## VI 結論

本研究は、成田ニュータウンにおけるコミュニティ活動の特性を明らかにすることを目的とし、アンケート調査およびインタビュー調査を実施した。その結果、以下のようなことが明らかとなった。

成田ニュータウンの居住者は、成田空港および空港関連企業をはじめ、千葉県内の企業等へ就業する世帯主が多く、職住が近接する傾向がみられた。また、世帯主の年齢構成では、入居時期が1980年代以前の地区においては、高齢世帯が多いものの、就業をもつ家族世帯が半数を占めた。

成田ニュータウンにおいては、自治会や町内会など、地区内の居住者が主体となって、地区内の生活利便性の向上などを行政と連携して行うコミュニティ活動と、成田ニュータウン内の施設を利用して活動する趣味の活動やサークル活動がコミュニティを形成する重要な活動であった。これらへの参加は、居住期間の長い居住者の多い戸建て住宅地区において積極的にみられ、居住期間の短い分譲の集合住宅においては、消極的であった。

一方で、居住期間に関わらず、「おやじの会」や「吾楽会」など男性居住者が参加する活動が確認された。これらの会は、就業時期に形成され、地域貢献や参加者の親睦を深める働きをしていた。男性居住者が地縁を深め、成田ニュータウンに愛着を形成していく契機として成田ふるさと祭りへの参加が重要な役割を果たしていた。

成田ニュータウンにおいては、男性居住者が就業時からコミュニティ活動に参加し、女性はサークル活動などに積極的に参加していた。ベッドタウン型のコミュニティが女性主導で、定年退職後に男性が加わる構造であったのに対し、自立型の

成田ニュータウンは男女がそれぞれに活躍の場を持ち、定年後には就業時に築いた地縁からサークル活動などの交流活動に発展していく傾向がみられた。自立的な立地条件に加えて、成田空港という就業機会によって地縁と職縁が一致しやすい状況が生まれたことが、男性居住者のコミュニティ参加を早期から可能にした。成田ニュータウンの生活の質を高めるためのコミュニティ活動、成田ニュータウン居住者の交流を深めるサークル活動の両面が豊かに育まれたことによって、成田

ニュータウンの居住性が高まり、多様な年齢構成、収入層の居住者が心地よく居住できる街が形成されたと考えられる。このような特性がすべての自立型の郊外住宅地に当てはまるかは今後の課題であるが、ベッドタウン型の郊外住宅地と自立型の郊外住宅地では、コミュニティのあり方が大きく異なることが示された。

本研究の調査においては、成田市をはじめ、成田ニュータウン自治会連合会および各自治会の役員の皆様、居住者の皆様に多大なるご尽力を賜りました。製図にあたっては、筑波大学地球科学系技術専門職員の宮坂和人氏の助力を賜りました。記して御礼申し上げます。本研究は、日本学術振興会による科学研究費補助金（21・338, 21・596）、同科学研究費（A）19202027,（C）20520677を利用した。執筆は、I・V・VIおよびIV-4を久保、I-3およびIIを菱沼、IIIを小野澤、IVを橋本が執筆し、全体の調整を久保および松井が行った。

#### 【注】

- 1) 地区ショッピングセンターは、現在コンビニエンスストアなどに業種転換しているものが多い。
- 2) 中央公民館においては、毎年11月には公民館まつりが開催される。各地区の公民館で行われるサークル活動や住民有志集団が参加し、サークル活動の成果を発表したり模擬店を出展したりするほか、新規メンバーの勧誘などを行っている。2008年の参加者リストによると、子育てサークルや中高年女性の絵画やダンスサークル、さらに中高年男性の切手収集や模型作成クラブなど多岐にわたる活動が行われていた。
- 3) 成田ニュータウンにある戸建住宅は2種類あり、戸建住宅とテラスハウスに分かれる。テラスハウスは、並んで建設された2棟の住宅の一部が接続しており、戸建て住宅と比較すると安価である場合が多い。
- 4) 成田市に地縁のある居住者では、結婚などのライフイベントで転出する際の転居先として成田ニュータウンや、京成本線の公津の杜駅周辺の新開発地などが選択される傾向がある。これらの地区においては、賃貸住宅の選択肢が多いことや、家族世帯に購入可能な価格や間取りの新築マンションが供給されている地域であるためである。
- 5) 「成田ふるさと祭り」においては、2005年から福引抽選会を開催している。福引券は各自治会・町内会を通じて地域住民に配布される。

#### 【文献】

- 一番ヶ瀬康子（2003）：『女性の主体形成と男女共同参画』ドメス出版。
- 影山穂波（2004）：『都市空間とジェンダー』古今書院。
- 金城基満（1983）：ニュータウン地域の年齢構成の変化とその要因－千里と泉北の事例から。人文地理，**35**，171-181。
- 川口太郎（1997）：郊外世帯の居住移動に関する分析－埼玉県川越市における事例－。地理学評論，**70A**，108-118。
- 木村オリエ（2006）：郊外地域における男性退職者のコミュニティ活動への参加プロセス－多摩市桜ヶ丘

- 団地の事例－. 地理学評論, **79**, 111-123.
- 谷 謙二 (1997) : 大都市郊外住民の居住経歴に関する分析－高蔵寺ニュータウン戸建住宅居住者の事例－. 地理学評論, **70A**, 263-286.
- 福原正弘 (2005) : 『甦れニュータウン 交流による再生を求めて』古今書院.
- 成田市都市部都市計画課 (2007) : 『成田市都市基本計画 (全体構想)』成田市
- 中澤高志・佐藤英人・川口太郎 (2008) : 世代交代に伴う東京圏郊外住宅地の変容－第一世代の高齢化と第二世代の動向－. 人文地理, **60**, 144-162.
- 長沼佐枝・荒井良雄・江崎雄治 (2006) : 東京大都市圏郊外地域の人口高齢化に関する一考察. 人文地理, **58**, 399-412.
- 由井義通 (1999) : 『地理学におけるハウジング研究』大明堂.
- Bell, C. and Newby, H. (1976) : Communion, communalism, class and community action: the sources of new urban policies. In Herbert, D. and Johnston, R. eds *Social Areas in Cities*. Wiley, Chichester.
- Hetherington, K. (1990) : The contemporary significance of Schmalenbach's concept of the Bund. *Sociological Review*, **42**, 1-25.
- Morrow-Jones, H.A. (1988) : The housing life-cycle and the transition from renting to owning a home in the United States: a multistate analysis. *Environment and Planning A*, **20**, 1165-1184.
- Morrow-Jones, H.A. (1989) : Housing tenure change in American suburbs. *Urban Geography*, **10**, 316-335.
- Rose, D. (1980) : Towards a reevaluation of the political significance of home ownership. In *Housing construction and the state*, London. CSE, Political Economy of Housing Workshop.
- Savage, M. and Warde, A. (1993) : *Urban Sociology, Capitalism and Modernity*. Macmillan, London.
- Schmalenbach, H. S. (1977) : *Herman Schmalenbach: On Society and Experience*. University of Chicago Press, Chicago.
- Watson, S. (1980) : Housing and the family: the marginalization of non-family households in Britain. *International Journal of Urban and Regional Research*, **10-1**, 8-28.

**問1** 現在のお住まいへの入居に関してお答えください。

- (1) 以前の住居から、現在のお住まいへ転居するきっかけとなつた出来事に○をつけてください。(複数回答可)
1. 転勤や新規就職のため
  2. 退職のため
  3. 結婚のため
  4. 子の進学のため
  5. 家族の成長で家が狭くなったため
  6. 子が独立したため
  7. 住宅を所有したため
  8. 以前の住宅に不満があったため
  9. 現在の住宅の供給の情報が入って転居を考えた

10. その他 (ご自由に記入ください)

(2) 以前の住居から転居先を探す際に、引越先として具体的な物件の情報収集などを行つた地域とその物件の概要についてお答えください。現在の住居以外で比較した地域や物件のうち、第一候補から第三候補までについて当てはまるものをお選びください。同じ地域内でいくつかの物件を比較した場合は、一つの欄で複数回答可です。

探索地域 (当てはまるもの○をつけ、具体的に地域名を記入してください)	住宅タイプ	住宅の所有形態 (当てはまるもの○をつけ、その他には具体的に記入してください)
第一候補	1. 成田市内 ( 地区 ) 2. 成田市外 ( 郡・道・市・区 町・村 ) 3. その他	1. 新築・新規分譲住宅購入 2. 中古住宅購入 3. 親族等の住宅継承 4. 賃貸住宅 5. 寮・社宅 6. その他 ( )
第二候補	1. 成田市内 ( 地区 ) 2. 成田市外 ( 郡・道・市・区 町・村 ) 3. その他	1. 新築・新規分譲住宅購入 2. 中古住宅購入 3. 親族等の住宅継承 4. 賃貸住宅 5. 寮・社宅 6. その他 ( )
第三候補	1. 成田市内 ( 地区 ) 2. 成田市外 ( 郡・道・市・区 町・村 ) 3. その他	1. 新築・新規分譲住宅購入 2. 中古住宅購入 3. 親族等の住宅継承 4. 賃貸住宅 5. 寮・社宅 6. その他 ( )

(3) 現在のお住まいの住宅に決定した理由に当てはまるもの○をつけてください。

1. 住宅価格の妥当さ
2. 間取りや内装
3. 供給会社の信頼性
4. 住宅のデザインや外観
5. 資産価値が維持できる
6. 建物や街区の防犯体制
7. 以前の土地利用が安心である
8. その他 (重視した点があれば、ご自由にお書きください)

\*一番重要視した項目の番号に○をつけてください

(4) 現在お住まいの地区 (町丁) に決定した理由に当てはまるものに○をつけてください。

- \*利便性\*
1. 世帯主の就業地への近接
  2. 配偶者の就業地への近接
  3. 親や親族の住居への近接
  4. 子の教育施設 (学校・塾等) への近接
  5. 友人・知人への近接
  6. 成田空港への近接
  7. 東京圏への近接
  8. 成田駅への近接
  9. 医療施設 (総合病院) への近接
  10. 医療施設 (歯科等の医院) への近接
  11. 図書館や公民館への近接
  12. 郵便局・金融機関への近接
  13. 日常的買い物物の利便性 (スーパー)
  14. 郵便局・金融機関への近接
  15. 飲食店が充実している
  16. 公共交通機関が充実している
- \*快適性\*
17. 道路 (車道) が整備されている
  18. 緑道が整備されている
  19. 自然環境が豊かである
  20. 地盤や地形がしっかりしている
  21. 古墳などの歴史遺産が多くある
  22. 周囲の住宅や建物の建て込みが少ない
  23. 地区の風紀の良さ
  24. コミュニティ活動が盛んである
- \*安全性\*
25. 地域の防犯体制がしっかりしている
  26. 火災・地震・水害などに対する安全性
  27. 供給会社への信頼や安心感があった
- \*その他\*
28. N.T全体の景観上のまとまりの良さ
  29. 小学校区の特徴 (学力・校風)
  30. 街区・マンションの外観のよさ
  31. 周辺地区の住宅価格や地価
  32. 周辺地区の地理がわかっていてため
  33. その他 (重視した点があれば、ご自由にご記入ください)

\*一番重要視した項目の番号に○をつけてください

**問2** これまでの居住経験と今後の転居予定についてお答えください。

(1) あなたの出生時から現在までの引越しについてお答えください。

引越し回数	引越し年	居住地(引越し先) 都道府県、市区町村(の地区名)	引越しの理由	住居タイプ 住宅形態、所有形態
例	1995年	東京都品川区	1. (就職)	1. 特家 2. 賃貸 3. 寮・社宅
例	H.12年	千葉県成田市区	橋賀台 3丁目	1. 戸建て 2. 集合住宅
出生時	(出生年)	都道府県市区	---	1. 特家 2. 賃貸 3. 寮・社宅
1回目	(引越した年)	都道府県市区	1. 特家 2. 賃貸 3. 寮・社宅	1. 戸建て 2. 集合住宅
2回目	年	都道府県市区	1. 特家 2. 賃貸 3. 寮・社宅	1. 戸建て 2. 集合住宅
3回目	年	都道府県市区	1. 特家 2. 賃貸 3. 寮・社宅	1. 戸建て 2. 集合住宅
4回目	年	都道府県市区	1. 特家 2. 賃貸 3. 寮・社宅	1. 戸建て 2. 集合住宅
5回目	年	都道府県市区	1. 特家 2. 賃貸 3. 寮・社宅	1. 戸建て 2. 集合住宅
6回目	年	都道府県市区	1. 特家 2. 賃貸 3. 寮・社宅	1. 戸建て 2. 集合住宅

---引越しの理由  
 下記の7つより引越しの理由をお選びください(複数回答可)  
 最も重要な理由を○で囲んでください

- 職業**  
新規就職、転職、  
新規就職、転職、  
親からの独立、子の独立、  
転職、退職などの理由
- 利便性**  
交通の便、  
医療施設の近さ、  
職場や学校への距離  
などの理由
- 学業**  
進学などの理由
- 経済**  
価格が妥当、  
家賃を考えてなどの理由
- 自然環境**  
地形や地盤が強い、  
騒音や振動がない、  
公園が多いなどの理由
- その他**  
住宅に問題があった、  
契約が切れた、  
立ち退きにあった  
などの理由

引越しの理由  
 \*詳しい理由は、別紙にご記入ください  
 ←欄に直接お書きください

(2) 将来的な引越しの予定や希望についてお答えください。

- 今後引越しをする予定・可能性はありますか？(複数回答可)  
 1. 実家継承のため引越す可能性がある  
 2. 子の居住地の近くへ引越す可能性がある  
 3. 良い住宅があれば引越したい  
 \*介護施設や病院などへの入居は除いてください
- 将来引越すとしたら、どの地域のどんな住宅を希望しますか？(各欄から一つ回答)

希望地域	住宅形態	住宅の所有形態
1. 成田NT内	1. 戸建住宅	1. 新築・新築分譲住宅購入
2. 成田市内	2. マンション	2. 中古住宅購入
3. 成田市外	3. 集合住宅	3. 賃貸住宅
		4. 親族等の住宅継承
		5. その他

3) 成田ニュータウンに住み続けたいと希望される方はお答えください。  
 その理由に当てはまるものに○をつけてください。(複数回答可)

- 勤務先との近接がよいから
- 文化活動が盛んだから
- 成田NTへの愛着があるから
- 交通利便性が高いから
- 友人・仲間が多いから
- 自然環境が豊かなから
- 商業施設が豊富だから
- 住宅への愛着があるから
- 自然災害が少ないから
- その他(ご自由にご記入ください)

**問3** 成田ニュータウン(成田NT)での生活についてお答えください。

(1) コミュニティ活動についてお答えください。

- 以下に挙げるコミュニティ活動のうち、あなたが参加したことがあるもの全てに○をつけてください。  
 1. 町内会・自治会役員  
 2. 自治会連合会役員  
 3. 地域環境整備事業  
 4. 青少年健全育成協議会役員  
 5. 自治会・町内会の自主防災組織  
 6. 自治会の老人クラブ(尊令会)  
 7. 成田ニュータウン防犯パトロール隊  
 8. 街角クリーン作戦(地域環境美化運動)  
 9. 自治会の婦人会  
 10. 成田市敬老会  
 11. 県人会・〇〇人会  
 12. 成田ふるさと祭り
- これらのうちで、役員として参加したことがあるものの番号全てに○をつけてください。  
 ( 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12 )

3) これらのうちで、あなたが一番熱心に取り組んでいる活動の番号・活動時間をお答えください。  
 (番号) (活動頻度 月に 回) (開始時期 年頃)

(2) サークル活動についてお答えください。

- あなたが現在参加しているサークルの数を答えください。そのうち成田ニュータウン内で活動が行われているものを答えください。  
 (参加サークル数) ⇒ (成田ニュータウン内で活動するサークル数)
  - サークル活動のうちで、あなたが一番熱心に取り組んでいるサークルについてお答えください。  
 (活動内容) (活動頻度 月に 回) (開始時期 年頃)
- 活動場所 ( 1. 町内の公民館 3. 成田ニュータウン内の他の施設 )  
 ( 2. 成田ニュータウン内の公民館 4. その他 )  
 活動を始めた理由 ( 1. 活動に興味があった 3. 友人を作るため 5. 知人・友人の勧め )  
 ( 2. 活動場所が家に近い 4. 家族の勧め 6. その他 )

